

製品名: CENPS ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08652**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	15kDa

抗原情報

遺伝子名	APITD1 CENPS FAAP16 MHF1
別名	
遺伝子 ID	100526739.0
SwissProt ID	Q8N2Z9
免疫原	ヒトタンパク質由来の合成ペプチド。AA 範囲: 70-150

背景

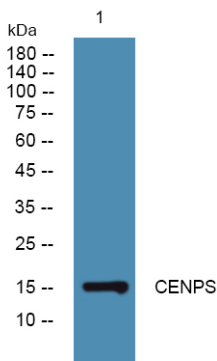
この遺伝子は、染色体 1p36 の神経芽腫腫瘍抑制因子候補領域で同定されました。この遺伝子は、p53 を介した転写活性化に必要な TATA ボックス結合タンパク質関連因子 TAF(II)31 に見られるものと類似した TFIID-31 ドメインを含んでいます。この遺伝子は神経芽

腫瘍において非常に低いレベルで発現しており、神経芽腫細胞の細胞増殖を低下させることが示されたことから、細胞死経路において何らかの役割を果たしている可能性が示唆されています。このタンパク質は、ファンconi貧血 (FA) コア複合体、APITD1/CENPS 複合体、CENPA-CAD (ヌクレオソーム遠位) 複合体など、複数の複合体の構成要素です。既知の機能としては、FA コア複合体のクロマチン会合への関与、および外側動原体の安定した集合における役割などがあります。この遺伝子の選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。天然に存在するリードスルー転写産物も存在します。注意: ここに示す配列は Ensembl 自動解析パイプラインから得られたものであり、予備データとして考慮する必要があります。機能: ヒトソマトスタチン受容体 (SSTR) のすべてのサブタイプに結合します。また、SSTR を介してフォルスコリンによって誘導される cAMP 産生を阻害します。機能: CENPA-CAD (ヌクレオソーム遠位) 複合体の構成要素です。この複合体はセントロメアにリクルートされ、動原体タンパク質の組み立て、有糸分裂の進行、および染色体の分離に関与します。類似性: ソマトスタチンファミリーに属します。類似性: TAF9 ファミリーに属します。細胞内局在: セントロメアにのみ局在します。CENPA-CAD 複合体は、おそらく CENPA-NAC 複合体によってセントロメアにリクルートされる。サブユニット: CENPA-CAD 複合体の構成要素であり、CENPI、CENPK、CENPL、CENPO、CENPP、CENPQ、CENPR、および CENPS から構成される。CENPA-CAD 複合体は、少なくとも CENPA、CENPC、CENPH、CENPM、CENPN、CENPT、および MLF1IP/CENPU から構成される CENPA-NAC 複合体と相互作用する。組織特異性: 皮質および海馬の GABA 作動性細胞のサブセットで発現する。組織特異性: 普遍的に発現する。

研究分野

-

画像データ



KB 細胞溶解液のウェスタンブロット分析、CENPS ウサギポリクローナル抗体を 1:1000 に希釈し、4°で一晩